



かしわの

No 502 (10月号)

令和4年 9月30日

調布市立柏野小学校

校長 浅野 正 臣

<http://www.chofu-schools.jp/kasiwano-sho> mail:kasiwano-sho@chofu-schools.jp

チャレンジ

副校長 八木橋 小百合

彼岸花が、きれいに咲くころとなりました。

台風14号では、記録的な大雨や暴風により、九州地方を始めたくさんの地域で被害がありました。心からお見舞いを申し上げます。

さて、先日、5年生のAさんとBさんがニコニコ笑顔で職員室まで来ました。「どうしたの?」と聞くとAさんが「Bさんが嬉しいことがあったんです。聞いてあげてください。」と言ったので「Bさん、えっ、どんなこと?」と私が言うと、Bさんは「リコーダーの検定、合格したんです。」と嬉しそうに報告してくれました。「どのくらい練習したの?」と質問すると、コツコツと家庭でも時間を見つけて練習したと伝えてくれました。私は、「一生懸命練習して、合格して嬉しかったね。」と言うと、目を輝かせながら笑顔でうなづいていました。

「一事を必ずなさんと思えば、他の事破るるをいたむべからず。人の嘲り(あざけり)も恥ずべからず」これは、徒然草(吉田兼好)の150段目にある文章です。意味は、「(「できるようになってからやろう」ではなく「やりながらできるようになる」自信のないものを人に見られるのは恥ずかしいけれど、それでも、誰かから指摘を受けながらやっていくことで出来るようになる。)です。この段は、技術や経験を身に付ける上での心構えを教えてくれています。

ともすると、人は「できる」「できない」と結果にフォーカスしてしまいがちです。そうすると、「できる」ことばかりを集めて「できない」ことには、チャレンジすることを避けてしまった

り、恐れてしまったりするようになります。

自転車に乗れるようになった時を思い出してみてください。最初から自転車に乗れた人は、まず、いないのではないのでしょうか。大人が自転車の後ろを支え、子どもがコツをつかむまで何回も何回も練習に付き合ったことでしょうか。時には、転んでけがをして泣いたり、もう乗りたくない気持ちになったりした時もあるでしょう。それでもあきらめずに練習を続け、乗れた瞬間が訪れた時に「やったあー、乗れたあ。」という達成感を大人も子どもも一緒に味わうことができたと思います。

「失敗」は誰もしたくありません。大人も子どもにも失敗させるようなことはしたくないと思っています。でも、「失敗」と「成功」の真ん中にあるものがあるように私は思います。それは「うまくいかない経験」だと思います。私は、子どもたちに「うまくいかない経験」をしたら「あきらめないでやり直し」をすることの大切さを事あるごとに伝えています。

「できなくて当たり前」「できないからこそやろう」という気持ちを大切にしたいです。そして、自分の可能性を広げるために勇気を出してチャレンジする心を育てていきたいです。教職員一同、力を合わせて、目の前の子どもたちに寄り添いながら共に進んでいきます。

